

## オリジナルの花瓶・花器に花をアレンジする

～花を活ける花瓶・花器を作成する創造力・発想力を育てる～

作成者：株式会社フローレ21 高杉 揚子

- 対象者・人数：小学生 20～30人
- 所要時間：1時間30分～2時間（学年によって異なる）
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名・スタッフ1～2名
- 対象場所：学校・イベント・児童センター（参加人数によって所要時間とスタッフの人数を増減させる）

### ■ 資材

- ・ ペットボトル500ml
- ・ 切花用のハサミ
- ・ ビニールテープ
- ・ カッター
- ・ 工作用ハサミ
- ・ 毛糸
- ・ ひも、またはリボン
- ・ ワイヤー
- ・ シール



切花用ハサミ



ビニールテープ



リボン



毛糸・ワイヤーなど

### ■ 花材

季節の花を使うことにより、春夏秋冬とオールシーズン対応できる

- ・ 一人、5～6本ぐらい選べる本数・種類を用意する
- ・ 事前に水揚げをして、花を元気な状態にする

※季節の花

- ・ 春＝チューリップ・スイートピー・マーガレット・ガーベラ・カーネーション など
- ・ 夏＝ヒマワリ・アワ・クルクマ など
- ・ 秋＝ケイトウ・リンドウ・ワレモコウ・オミナエシ など
- ・ 冬＝ガーベラ・バラ・ヒバ・サンキライ・松かさ など



ガーベラ



マーガレット



スプレーカーネーション



デルフィニューム

### 【指導内容と目的】

- ・ 花を通して、人と植物との関わりを考える＝植物は人間にとって必要な物なのか？  
生活の中でどんな時に花が必要になるかなどを考えてみる。
- ・ 花瓶・花器にしたい物（ペットボトルや空きビン・牛乳パックなど）を家から子ども達に、探してきてもらう。  
資材などを使って、お花を生ける花瓶・花器を子ども達が独自で考えた形にデザインする。  
＝想像力や発想力が必要となる。
- ・ アレンジは作品見本を用意せず、花を自由に選び、自由にアレンジを行う。
- ・ 花に触れ、花を贈る楽しさ・喜びを感じてもらう。

### 【対象者への配慮】

- ・ ペットボトルを花器にする。  
花器を作る時に、カッター・ハサミを使用するので、怪我のないように十分注意する。  
（炭酸飲料のペットボトルはとても硬いので、使用は避けたほうが良い）
- ・ 花を切る時はなるべく切花用のハサミを使用する。  
工作用のハサミは、花を切りにくく、茎がつぶれてしまう事がある。切花用のハサミを使う前には、必ずハサミの扱い方や花の切り方について説明すること。
- ・ 花の紹介・特徴などを説明をする際には、子ども達が分かりやすい言葉を選び、興味を持ってくれるような話し方・説明（特徴・名前の由来・産地・花びらの形など）が良い。  
高学年には、「花言葉」や「カラーセラピー」などを取り入れ、興味を持ってもらう。  
花の特徴を知ってもらうため、紹介した花を全員に渡して、花の香り・感触を必ず確かめてもらう。

## ① 当日の流れ

時 間 (所要時間) 1時間30分～2時間 (年齢によって異なる)

## 手 順

花瓶・花器の工作 → 花の説明 → 花選び → アレンジ → 片付け → 感想・発表

## 指導ポイント

花を生ける花瓶・花器は、子ども達が独自で考えたデザインとする。(想像力や発想力が必要となる。)

自分で作ったオリジナルの花瓶・花器に、好きな花を生けることで、花を飾る楽しさを知ってもらう。

## ② 時間配分

20分	① 植物・花について考える植物と人間との関わりや、花をどんな時に必要とするかを考え、発表してもらう。
20分	② 花瓶・花器工作 自分が花を活けたい花瓶・花器を作成する。
10分	③ 花の種類についての説明 香り・感触を楽しんでもうら為、全員に回す。
10分	④ 花選び・水くみ 順番待ちをしている間、花瓶・花器に水を各自に入れる。
10分～15分	⑤ アレンジ開始
5分	⑥ 片付け
5分	⑦ 「花レシピ」に選んだ花の名前を記入
5分	⑧ アレンジ発表・感想

## ③ フレームワーク

## ① 準備

・ バケツに水を入れて、花材を並べる。

<用意する物>

・ 花の名前カード

※ 幼児・小学生低学年の場合、バケツに貼り付ける花の名前はひらがなで書く。花の産地なども書くと良い。

・ カラーテープ・ひも、またはリボン・毛糸・シール・ワイヤー

・ カッター・工作用ハサミ

・ 切花用ハサミ

## ② 挨拶

・ 今日のテーマの説明。

## ③ 植物・花について考える。

・ 植物と人間との関わりや、花をどんな時に必要とするかなどを考え、発表してもらう

## ④ 花瓶・花器を作る。

・ 準備してきた、ペットボトルや空き瓶・牛乳パックなどを使って、作成する。

## ⑤ 資材(カラーテープ・ひも、またはリボン・毛糸・シール・ワイヤー)を使って、花瓶・花器を仕上げていく。

## ⑥ 花の名前・特徴を紹介(産地・名前の由来・花びらの形など)

・ 花の名前は事前にバケツに貼り付けるのではなく、「この花の名前を知っている人！」などと、子ども達に質問して答えてもらい、その後、花の名前・特徴について話しながら、バケツに名前を貼り付けるようにする。

「花言葉」や「カラーセラピー」などを取り入れ、興味を持ってもらう。

花の特徴を知ってもらうため、紹介した花を全員に渡して、花の香りや感触を必ず確かめてもらう。



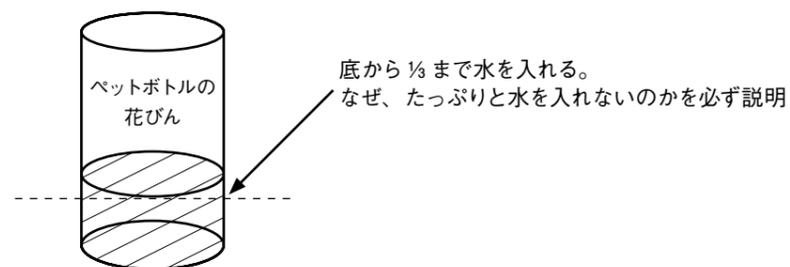
⑦ 花を選ぶ

選ぶ本数を決めて、子ども達に好きな花を選んでもらう。  
 その際、折れやすい花の取扱について説明する。  
 (どんな事をしたら花は折れてしまうか。花の性質、  
 さらに花の気持ちを考えてもらう。)



⑧ 全員花を選んだら、花瓶・花器に水を入れる。

その際、水の量について説明する。



⑨ 花の切り方を説明

- ・ 普段使用している工作用のハサミより、「良く切れる!」という事を説明
- ・ 右利きと左利きとに分けて説明。
- ・ 花の置き方・向きを説明。  
 (右利きの場合、花の顔 [咲いている方] を左向き横にして置くと、持ちやすく切りやすい。  
 左利きの場合、右利きと逆に置く)
- ・ 子ども達と同じ向きになり、花(茎)を持って、どうやってハサミで切るかを見せる。



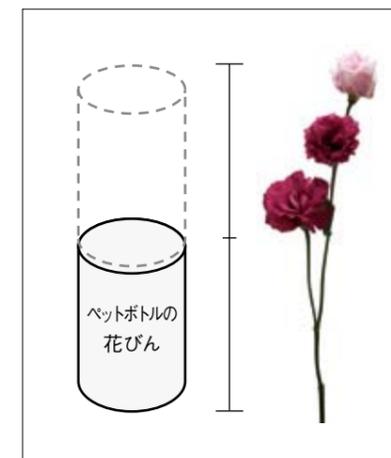
右利きの場合、左手で花を、右手にハサミを持つ。(左利きの場合は逆になる)



ハサミは、花を持っている手と反対側に向けて切ると安全。

⑩ 花の挿し方・アレンジの仕方を説明

- ・ 花器に対しての長さを教える。(どの位の長さできるか)  
  
 花の長さは長いものでもペットボトルの花びんの2倍ぐらいまでにする。あまり大きいと倒れてしまう。
- ・ 水に浸かる部分の葉は取る。(なぜ取るかを説明)  
  
 葉が水につかっていると、水がにごったり腐りやすくなる。



花の長さは、長いものでもペットボトルの花びんの2倍ぐらいまでにする。あまり大きいと倒れてしまう。

⑪ アレンジ開始

- ⑨.⑩の事に気をつけながら、自由にアレンジを楽しんでもらう。  
 なるべく、アレンジに対して、注意や意見は控える。  
 注意することは、花の切り方や挿し方のみ。  
 あまり多く注意事項があると子ども達がやる気をなくしてしまうので温かく見守ること。



⑫ 片付け

- アレンジが終わった子どもから、机の上、床のゴミを片付ける。  
 ゴミ箱に捨てる時は、茎をなるべく短く切ったり折って捨てることを教える。  
 (ゴミ袋から茎が飛び出て、子供がケガをしたりすることを防ぐ)  
 茎を短くする際、ハサミで切る場合は注意が必要。  
 ハサミを持ったままゴミ箱まで捨てに来る場合があるので、ハサミを持ち歩かないよう注意する。

⑬ 「花レシピ」を記入

- 自分で選んだ花の名前を記入してもらう。  
 花の名前を覚えてもらうため、また、家に帰って、家族と花の名前などについて話せるように。



## ⑭ 発表・感想

アレンジの発表、感想を聞いてみる。

「今日、好きになった花は？」

「どんなイメージで作ったの？」

「どこに飾る？」など、感想も聞いてみる。



## ⑮ 終わり

- ・ 終わりの挨拶

花が咲く楽しみ、水を換える方法などを説明。

幼児・小学生低学年には「今日からこの花たちのお母さんとお父さんになります。

きれいに長くお花を楽しむために、お世話をしあげてください。」と話す。

- ・ 皆で拍手をして終了

参考：花レシピカード (A6 サイズ)



幼児・小学生低学年の場合は  
「ひらがな」が良い